

溝口 元先生のご退職に寄せて

森 田 久美子

溝口先生がご退職されるにあたり、溝口先生と最も長くご一緒させていただいた学部の同僚として、溝口先生との思い出を記させていただきたいと思う。

溝口先生と初めて言葉を交わしたのは、私が社会福祉学部社会福祉学科の助手として勤務し始めた1998年4月のことである。当時、社会福祉学部の紀要『人間の福祉』の編集を担当されていた溝口先生に、次号の『人間の福祉』への投稿を勧めていただいた。元来の引っ込み思案の性格に加え、大学に初めて勤務し、実習指導の業務を把握するので精一杯だった当時の私は、すぐに返事ができずにいた。すると、しびれをきらした溝口先生に「こういう時には、すぐに『書きます』と言うものだ」とお叱りを受けてしまった。いただいた研究の機会やご縁を大切にすることや、自身の研究を積極的に公表していくこと等、研究者として大切にすべきことを教えていただいた。

その後、溝口先生ご自身が積極的に研究の機会を求め、切り開いてこられたことを先生からうかがう機会を幾度かいただいた。イタリア・ナポリにあるナポリ臨海実験所アーカイブスで資料調査をする機会を求めて日本学術振興会派遣研究員に応募され、晴れて選ばれて、現地での歓待を受けつつ調査研究に取り組まれたことや、科学史の研究をきっかけに心理学界に人脈ができ、その人脈を通じて『通史 日本の心理学』の編著に取組まれたことなど、知的探求の旅をすることの喜びや興奮、高揚感が伝わってくるようなお話だった。溝口先生は本号掲載の、ご自身の「履歴と業績」にも書かれているように、大学院時代からの専門である発生生物学のみならず、生命科学史や心理学史、福祉テクノロジーなどの領域でも膨大な業績を積み上げてこられているが、この膨大な研究業績の根幹には、溝口先生の大きな知的好奇心と探求心、貪欲に研究の機会を求め進もうとされる姿勢があったのではないかと感じている。

また、溝口先生は社会福祉学部（以下、学部）や社会福祉研究科（以下、研究科）の創設及び発展にご尽力くださってきた。特に、2000年度に学部の完成と同時に設置された研究科の運営の中心には、いつも溝口先生がおられた。溝口先生は、研究科の創設にあたっては設置委員会の委員として関わられ、研究科の設置後はその教授陣として参画されると共に、17年間に亘り研究科の運営を担う常務委員会の委員を務められた。また、研究科が社会福祉学専攻博士後期課程の新設（2007年度）や教育福祉学専攻修士課程の設置（2016年度）に取り組んだ折には、設置委員会の委員として文部科学省への申請事務をサポートする労を担われ、その実現に貢献された。さらに、2020年度から2022年度にかけては、社会福祉学研究科長として、コロナ禍のもとでの研究科運営の指揮をとられ、オンラインでの中間報告会や大学院入試の実施等コロナ

禍による難局への対応や、留学生の受け入れや大学院を担当する教員の増員等研究科の活性化への対応に取組まれた。

溝口先生が社会福祉学研究科長を務められた3年のうちの1年間、私は常務委員会の委員として研究科運営と一緒に担わせていただいた。常務委員会はコロナ禍の折、オンラインで開催されたが、毎回、溝口先生を中心に対面さながらの丁々発止の議論が交わされた。そのような常務委員会は紛糾し時間切れとなることも少なくなかったが、そのような時も溝口先生は、最後に「今日も良い議論ができた」と笑顔で締めくくられた。互いに意見や疑問を表明し合い、時に意見を戦わせ議論することを通じて、懸案事項についての認識を深めることを好まれる先生であった。

また、学部・研究科の教育では、溝口先生は、「バイオエシックス」や「生命倫理特論」等の講義を担当くださった。ウィットに富んだ溝口先生の講義は、学生に人気の科目の一つであった。研究科では、多くの大学院生を指導された。大学院生の専門とする領域と溝口先生の専門とする領域が異なる場合でも、溝口先生は快く研究指導を引き受けられ、先生の培われた研究のノウハウを伝授された。溝口先生のもとで研究に取り組んだ大学院生の専門は、看護学や死生学、精神保健学、歴史学と多岐にわたる。また、溝口先生の門下として、知的探求に取り組んだ大学院生の数は、18名にのぼる。

このように教鞭をとる傍ら、溝口先生は、ご自身も社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉系の資格を取得され、その経験を活かし、ソーシャルワークを専門とする教員と共に、社会福祉士養成や精神保健福祉士養成の一翼を担ってくださった。特に、国家試験直前に受験生を激励するために開かれる壮行会では、受験生を前に必勝の文字の書かれたハチマキを頭に巻いて立ち、ユーモアを交えつつ受験の心得を伝授下さった。その溝口先生の姿から、勇気をいただいた受験生は少なくなかったのではないかと思う。また、「精神障害の人は人間臭くて、面白い人達ですね」と、精神保健福祉士の実習で感じた精神障害の人の魅力を話され、私の担当する精神保健福祉士養成にもエールを送って下さった。

あふれる知的好奇心と探求心、チャレンジ精神で、教員や学生を知的探求の旅に誘い、勇気づけ、牽引してきて下さった溝口先生に、改めて感謝申し上げたい。